

【成果概要】3-4 気候変動による能登大納言小豆の生育への影響調査【石川県】

■ 成果

- 能登大納言小豆の生育へ影響する主な気象要因は、①播種期への梅雨の影響、②開花期の高温(最低気温)、③開花期後期から成熟期の降雨の影響であった。
- これらの影響は現在既に被害を及ぼしており、①③については将来も同様の被害が、②については将来被害が増加する可能性が示された。
- 適応策としては、品種改良による耐暑性・耐湿性の獲得と、播種期を大幅に早める超早播栽培が考えられた。
- 特に超早播栽培では、播種を梅雨前の6月上旬に実施し梅雨の湿害を回避し、栄養成長期を十分に確保すること、及び蔓化防止のため8月上中旬に摘心を実施することで、生育の促進及び開花期後期から成熟期にかけての倒伏を防止できる可能性が示された。

○ 超早播栽培の様子



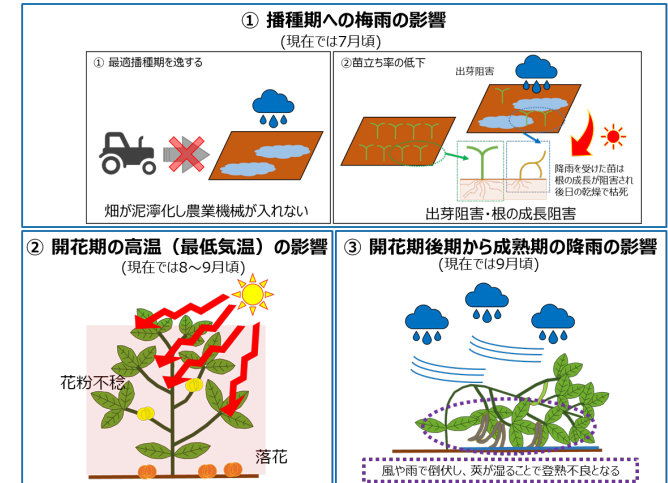
○ 摘心作業の様子



■ 課題

- 予測手法の確立に使用できるデータが不足しているため、定量的解析に限界がある。

○ 現在の能登大納言小豆の生育へ影響する気象要因



○ 能登大納言小豆へ影響する気象要因の将来予測

① 播種期(7月頃)における梅雨の影響の将来予測



② 開花期(8~9月頃)の高温(最低気温)の将来予測



③ 開花期後期から成熟期(9月頃)の降水の将来予測



3-4 気候変動による能登大納言小豆の生育への影響調査【石川県】

■ 適応オプションのまとめ

適応 オプション	想定される実施主体			評価結果							
				現状		実現可能性				効果	
	行政	事業者	個人	普及 状況	課題	人的 側面	物的 側面	コスト 面	情報 面	効果発 現まで の時間	期待され る効果の 程度
農家への栽培技術の情報発信	●			(一部)普及が進んでいる	・現在実施を始めており、短期で効果が期待できるが、常に最新情報を展開する必要があり、継続的な取り組みが必要。	◎	○	△	◎	短期	中
品種改良	●			普及が進んでいない	・耐暑性の形質を持つ品種の開発を行う。 ・根本的な解決になりえるが、長期的な取り組みが必要。	◎	○	△	△	長期	高
超早播栽培の展開	●	●		普及が進んでいない	・摘心を実施する適切な時期について知見の收拾が必要。	◎	○	◎	△	短期	高